

市民との意見交換報告書

- 実施日 令和7年11月25日（火） 16:00～17:08
- 実施場所 庁舎5階 第1委員会室
- 議題 非常備消防（消防団）活動について
- 出席者 〈議会〉 藤尾委員長、大久保副委員長、長谷川委員、高瀬委員、松本委員、橋本委員
〈非常備消防（消防団）〉
植田竹吉団長、柴崎孝彦副団長、吉田亘秀副団長、山本直樹副団長

■発言要旨

（意見交換）

【藤尾委員長】

持続可能性の問題で、団員の皆さんの時間的制約や若い人のライフスタイルの変化などから消防団の在り方について心配しているのだが、今後の課題をどのように考えておられるのかお聞かせいただきたい。行政も含め、市議会として後押しできることあればと考えている。

【出席者】

消防団を取り巻く環境がいろいろと変化しているので、加東市消防団として市に要望する内容を詰めているところである。作成中のため、お話できる範囲でお伝えしたい。

何年も前から団員の高齢化と減少の進行、また、この2、3年で急に課題となってきたのが車両などの維持の難しさである。すぐに解決できる問題ではないので、先を見据えた方向性を示すべく要望書の形で前に進めようとしている。

【藤尾委員長】

例えば、車両の維持でどのようなところが難しいのか、具体的に教えてほしい。

【出席者】

若手団員の免許に合わせて、車両を全てオートマチック車に順次、年に3～4台を入れ替えていただいている。しかし、可搬式ポンプ自動車1台の購入費用も上がっており、財政的な負担が大きくなっていることに責任を感じている。

【藤尾委員長】

私は財政面での遠慮は不要だと思っている。加東市の行政レベルでは、常備消防をもっと充実させないといけない。本来は、常備消防をサポートする非常備消防であるにもかかわらず、非常備消防の負担の割合が大きいのではと感じている。常備消防の予算は浮いている。消防団に頼る運営から常備消防を基盤とする体制も考えられると感じている。

【出席者】

車両は17年以上経過で更新され、あと6～7年は、その更新サイクルが続くと聞いている。加東市には通常分団が75分団あり、社分団は車両を2台所有しているの、全部で車両は76台ある。しかし、マニュアル車がまだ多いと把握している。

【大久保副委員長】

中型免許の限定解除などの問題もあると思うが、どうか。

【出席者】

補助金を出していただいております、それを利用して、限定解除をした団員も何人もいます。

【大久保副委員長】

現状、ほとんどの消防団の車両は、限定解除しないと運転できないのか。

【出席者】

昨年度、その免許制度の関係もあり、3.5t未満の車両を1台導入したのだが、かなり無理をして装備を詰め込んでいるので、非常に使い勝手が悪い結果となった。やはり、従来どおりの3.5t以上の車両が望ましいと思っている。

【高瀬委員】

火を消すだけでなく、災害対応など様々な観点から、その他の要望も要望書には含まれているのか。

【出席者】

全体を包括して議論をしないと前に進んで行かないと思っている。車両や資機材は提供いただいても、運用する団員が維持できないところがだんだん出てくる。稼働できる団員が5名しかいない地区に、新しい器具庫や新しい車両、その他資機材などを配備することが妥当なのかどうか。消防団の活動に「費用対効果」という言葉は適切ではないと思うが、本当にそれらは意味があるのかという段階に来ている。それも含め、加東市は消防団の在り方をどう考えるのかを聞きながら、消防団としての方向性を示したいと考えている。

【高瀬委員】

地区が消防に関わる費用を負担しながら活動の後押しをしている。しかし、団員の確保が困難な現状で、消防団を合併させて2地区で消防活動させたらどうかという一般質問を以前に行った。理事者側からは、消防団は、消火や災害対応だけでなく、地区の行事など、いろいろな付き合いにも参加しているため、地区の事情もあり非常に難しいとの答えだった。消防団としてはどう考えているのか。馬瀬・山口分団のように昔から上手く分担を決めてできているところもある。今後はこのような事も考えていかないといけないのではないか。

【出席者】

私たちも非常に悩ましい状況である。国や市から消防団に対する手当や補助を手厚くしてもらっているのは非常にありがたいが、やはり、地元の消防団は昔ながらのつながりが非常に強い。各地区の夏祭り、秋祭りを見ていると、消防団の協力が必要だと感じるが、人員不足などの課題もあり、現在の形を維持するのが難しいとも感じる。そこをいかに両立させて、すみ分けをしていくかが課題である。何かあった時に消防団は、消防署と同じ動きをしなくてはいけなくなるので、それに対する訓練も必要である。地区の先輩から、「入れへんか」と声がかかり、村の付き合い程度でよいと考える団員がいれば、郷土を守るという思いを持った団員もいると思うので、そのあたりのすみ分けも、どのようにするか案を考えている。

【藤尾委員長】

消防団のあり方検討委員会が過去にあったが、その内容を踏まえたところもあるのか。

【出席者】

当時、消防団のあり方検討委員会で結論を出すところまで参加したが、当時は、「いかに消防団に残ってもらえるか、入ってもらえるか」という程度の話だったが、それからは大きく流れが変わったので、もう一度開催する必要があるのではと思っている。

【出席者】

団員の減少と平均年齢の上昇（40歳超）、一桁の団員しかいない地区もあるので、合併などの話もいずれはしないといけない。私の地区でも祭りに消防団は参加するし、どこの地区でもそのような事はある。地区とのつながりは切れないので、合併をするにしても地区の代表の方と相談をいろいろとしないといけないと思う。最終的には、うまく合併ができればよいが、現状ではどの方向に向いて進んで行くのかが一番の課題で、合併は少し先になるのかなと思う。

【出席者】

今年4月に上久米地区で発生した火災では36時間ほど消火活動にあたった。この事業所の検査や把握ができていたのかなと疑問に思う。知らないうちにこのような事業所が増えていっているのではないかと感じる。他県でも雨水が流れ出て下流で魚が死に、農家が慌てている状態になって指導が入った事例がある。もっと事前に検査したり、定期的にチェックして、あのような被害を増やさないようにしてほしい。リチウムバッテリーの処分方法が呼びかけられているが、事故が発生したりと問題になることもあるし、行政でしっかりとテコ入れをしてもらって消防団の負担を減らすようにしてもらいたい。未然に災害を防げれば出動回数も減る。

【藤尾委員長】

市としてどこまでできているか分からないのだが、北はりま消防本部で直接的な検査をしていると思うのだが、御意見としてお伺いしておく。

【高瀬委員】

最近は、事業所と地区で同意書を交わしているの、以前よりはマシになっているのではないかなと思う。大きな事業所の場合には、協議会を作る事もある。

【長谷川委員】

ヤードの中では何をやっているか分からない。年に一度は警察・消防・役所が入ってチェックをしていると言われるが、あのような火事もあったわけである。兵庫県の許可がおりれば事業ができるではなくて、中に何があつてどのようなことをしているかを分かっていないと出動しても対応に困ることになる。そこら辺はしっかりとやらないといけないと思う。

【藤尾委員長】

新しい詰所の利用状況を教えてほしい。

【出席者】

正副団長が毎月の会議で使用している。防災広場を一般市民の方に知っていただくため、9月にやしろショッピングパーク Bio でかとう安全安心フェスタ 2025 を開催した。防災広場・ステラパーク・市役所の一帯でのイベントを開催してもよいと思う。加西市が防団主催で鶴野防災倉庫前で KASAI 防災フェスティバル 2025 を開催しているのを見てきた。加東市もそのようなことを行い団員の確保にもつながればと考えている。また、詰所に Wi-Fi がないため、Wi-Fi 設備が欲しい。災害が発生した時には必ず必要になる。

【藤尾委員長】

ケーブルテレビが入っているようならばインターネット環境はあるだろうから確認をしてみる。今年からアプリを導入しているが、どうか。

【出席者】

一つ、GPS で各団員の位置情報を取得できるため、どこにどの団員がどのように展開しているのかが分かるので助かっている。

また、出火出動時にケーブルテレビやかとう安全安心ネットでは大まかな場所しか分からないのだが、アプリではピンポイントで表示されるため非常に助かる。

活動報告書などもアプリ上で作成でき、非常にスムーズに提出できるようになった。

7月からの試験運用で、各分団3名と本団幹部のみが使用している。出動現場で、ある団員が一定時間以上同じ場所から移動しなければ、当該団員に有事の可能性があるとアイコンの色が変わる機能もあるので、効果的に運用できると思う。

【藤尾委員長】

全員が持たれるほうがよいと思う。

基本的には、市役所の要望事項を聞いたり連携を取られていると思うが、何か連携が取れて

いないことはあるか。

【出席者】

市とのやり取りはできているのだが、消防署が北はりま消防組合の加東消防署という位置づけなので、西脇市や加西市で大きな災害が発生すると、そちらの方に人員や機材が行ってしまうことも予想される。その状況で加東市内に有事があれば、消防団が対応しないといけないのかと懸念している。

【高瀬委員】

火事で出動した際、地元の消防団が先に到着する。後から消防署が到着してからの連携はどのようなになっているのか。

【出席者】

この春から、上鴨川地区は西脇北出張所、高岡地区は加西南出張所と、北はりま消防組合によって地理的に近い出張所から迅速な応援が受けられるよい面もあるが、4月の上久米地区の火災では最初は西脇消防署、加西消防署の応援も来ていただけだが、付きっ切りとはいかないので地元へ帰所されることになる。その足りない分を消防団が補わなくてはならないということになるが、そのためには相応の装備が必要になる。装備を揃えれば最前線に出ることが当たり前になり、大きな怪我をする率が上がる。私たちとしては、できる限り後方支援で終わらせたいと考えており、そこまでの装備はしていない。北はりま消防本部との現場での役割分担や応援体制などの連携が明確でない状態では、積極的に動けないところもある。

【藤尾委員長】

北はりま消防本部に統合して10年経つと思うが、分担金の負担割合でもめたなどの新聞報道もある。統合前の加東消防署の時のほうがよかったなどはあるか。

【出席者】

負担金の事は仕方ないと思うが、私たちが一番悲しく懸念しているのは、加東消防署で育った人材が配置異動で組合になってから帰って来ないことである。

【藤尾委員長】

合併してから数年は積極的に人事異動をしましようという話だったように思う。全ての管内を順番に回られているのかどうか分からないが、各市町でお互い様のところもあるかもしれない。

【出席者】

消防団員が減少していく中で、消防団をどう運営をしていくのが課題である。団の統廃合もあり得る話だと思うが、地区から消防車・消防団がなくなることに対しての不安が必ず出てくると思うので、それらを極力抑えるために区長会とも連携と話し合いをしながら進めていく

必要があると思う。統廃合となれば、「どちらがどちらに入るか」から始まり、様々な問題があり簡単に進むことではないと感じている。

加西市でも同じようなことがあるようだが、いきなり統廃合するのではなく、二つの団が別々に活動をしていることもあるが、「一旦活動だけは一緒にやってください」となっているようだ。しかし、20人と3人のバランスで一緒に活動をしていると3人の方が来なくなってしまうことや行きにくくなる問題もあるようだ。隣接で合併するのか、少し離れていても人数のバランスを合わせて合併するのか慎重に考えないといけないと聞いた。

【出席者】

恐らく、10年以内にはどこかで統廃合はあり得ると思う。現状、把握しているだけでも数分団は限界に近付いている。そこで、どのようにしていくかを我々、正副団長で案を作りながら難しい中でも進めている。

【藤尾委員長】

馬瀬・山口分団は最初から一つか。途中で合併したのか。

【高瀬委員】

私の知る限りでは最初から一つだったように思う。途中から、やしろ台地区が加わった。

【藤尾委員長】

やしろ台地区で火災があると大変ではないのか。

【出席者】

やしろ台地区、秋津台地区、きよみづ郷などは本当に難しいところだ。

【高瀬委員】

消防団のない地区もある。大きい地区だと南山地区などがあるが、連携はどうなっているのか。また、どのように思われているのか。

【出席者】

消防団を置かないところで気になるのは消火栓である。通常は消防団が消火栓の点検整備をしているが、これを誰がするのかというのがまず一つある。市がするのか。他の消防団にお願いするのか。

消火栓ボックスの点検は一般の人でも可能だが、消火栓の点検は関係者でないとできない。

【出席者】

東条学園の7割以上が南山地区との話もある。

【出席者】

だからといって、南山地区で消防団を作っても入らないようにも予想できる。

南山地区や藤田南地区では、そもそも消火栓ボックスがない。中のホースなども地区が半分負担して更新をしないといけないのだが、そもそもないのも問題ではないかとも思う。

【藤尾委員長】

市として何か考えないといけないことである。消防団がない地区でそういう体制がとられていないならば問題もある。

【出席者】

いざという時の初期消火が難しくなる。

【橋本委員】

消防団がないから入らないというケースになるのだろう。地域の中で消防団を支えていく環境を広げていくことが大切だと思う。行政側から働きかければ、もっとよくなることもあるのではないかと思うのだが。

【出席者】

私の知る範囲では、南山地区で火災が発生すれば、森分団、岡本分団、横谷分団をはじめ、第10、第11小隊の各分団で対応することになっている。また、南山地区には消火栓はあるが、消火栓ボックスがないので、市の働きかけで、徐々に消火栓ボックスを設置する動きがあると把握している。

しかし、高価なので予算との兼ね合いでこの先どうなるかは分からない。

南山地区には消防署員の方も住まわれているので、そちらとも話をしながら、防災の在り方を考えられている。

また、南山地区において、東条地域26分団で一斉訓練を行った。南山地区は非常に重要な地域だと考えており、毎年実施している。

【長谷川委員】

消火栓はあるが、消火栓ボックスがないのは問題ではないのか。

【出席者】

消火栓ボックスにはホースなどがセットされているので、なければ初期消火はできない。

【出席者】

新しい家は耐火性が高いことと、南山地区100箇所の消火栓全てに消火栓ボックスを設置すると、最低でも2本のホースを格納しなくてはならず、劣化もするから定期的に更新もしていかななくてはならないことなどを考えると、非常に難しい。

【藤尾委員長】

私たちが消防団が円滑に活動できるように、持続可能な形で続けて行けるように思っている。